

編集後記

今月の編集後記は悲しいお知らせから始めなければならない。それは本号 580 ページの追悼記事にもあるように、われわれの敬愛してやまない、リハビリテーション界の慈父ともいべき砂原先生が 6 月 10 日突然に病魔に侵され、僅か 5 日間の闘病のちに同月 15 日不帰の客となられたということである。今月号から 6 回の予定で始まった講座「リハビリテーションのための統計学」の第 1 回として先生に統計の基本的な考え方について書いていただいたが、その冒頭には「一人一人の人間の存在感は大きい」とある。そういえば砂原先生ほど存在感の大きな方も珍しかった。結核から出発してリハビリテーション・臨床薬理学・人類遺伝学・医学医療論と四方八方に枝を伸ばした大樹のように多くのレポーターをもち、3 人分も 4 人分の仕事をしてこられた。その広い視野と公正な判断、そして何よりもあの温顔にもはや接することができないというのは悲しいことである。心から先生の御冥福を祈りたい。

さて今月の特集は「各種神経疾患のリハビリテーション」である。「特集にあたって」にも述べたように、神経疾患のリハビリ

テーションは現在 overwork weakness (過用性筋力低下) に代表される、従来軽視されていた新しいリスクの再認識と、薬物療法との併用の場合の増加という 2 つの点で厳密な医学的管理下においてでなければ訓練を行うことが危険なものになりつつある。蜂須賀氏、眞野氏、安藤氏、野手氏、大川氏らの論文の中からこの点についての具体的な指針をくみとっていただければ幸いである。

講座としては、先にあげた統計学とならんで「末梢神経」という大変基礎的なテーマのものが今号から 6 回連載でスタートした(第 1 回、井出氏)。学問的に進歩の著しいこの分野の概観ができるのは嬉しいことで、前記の神経疾患の新しい問題点とも関わるところがあるので、ぜひ熟読をいただきたい。

澤崎氏の巻頭言、工藤氏の研究と報告、岡本氏の症例報告などもそれぞれ有意義なものをいただくことができた。

最近投稿がやや少ない感がある。リハ医学会も終わったので、ぜひ学会に出されたものの投稿をお願いしたい。

(上田 敏)

編集顧問

天児 民和
大島 良雄
河邨 文一郎
五味 重春
津山 直一
土屋 弘吉

編集委員

明石 謙
上田 敏
緒方 甫
大井 淑雄
大川 嗣雄
千野 直一
横山 巖

編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲夫
岩倉 博光
江口 壽榮夫
小川 孟
荻島 秀男
奥川 幸子
加倉井 周一
小島 蓉子
斉藤 正也
笹沼 澄子
澤村 誠志
高橋 勇吉
高松 鶴吉
武智 秀夫
土屋 和夫
土肥 豊夫
永井 昌夫
中村 隆一
野島 元雄
野村 歆
長谷川 恒雄
初山 泰弘
福井 圀彦
松村 秩
三島 博信
矢谷 令子
米本 恭三
渡辺 英夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第16巻 第7号)

1988年7月10日発行(毎月1回10日発行)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

1 部定価 1,750円(配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 19,560円)
(送料弊社負担)

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1988, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。